

建交労北海道本部第26回定期大会 結成25年を機にさらなる前進へ 要求を前進させるため仲間を増やそう

建交労北海道本部第26回定期大会を10月5～6日に「北広島クラッセホテル」で開催し、代議員20人（+委任状10人）、道本部役員12人、傍聴者7人など40人余りが参加し、新年度運動方針などを決定しました。道労連の三上友衛議長、日本共産党北海道委員会の畠山和也元衆議院議員、中央本部の鈴木正明書記次長から激励の挨拶を受けました。

大会では、はじめに道本部の森国教委員長があいさつし「自民党の新総裁に高市早苗氏が選出されたが、国民の要求には背を向ける一方で排外主義を鮮明にした。自民党政治を今後も継承する立場であり、極めつけは『ワークライフバランス』を捨てるとまで表明している。自民党政治を一刻も早く終わらせなければならない」と述べるとともに、「今年は建交労北海道本部を結成してから25年を迎えた。大きく前進した面もあるが、困難に直面している課題もある。仲間の要求を前進させるためにも、どうしても組合員を増やすことが必要だ。大会に提案された方針を実践し、総達成しよう」と訴えました。

宮澤毅書記長が議案を提案し、2日間で9人の代議員から発言がありました。討論は建交労のとりくむ諸課題に沿いながら、国の学童保育施策と道内のうごき（札幌学童保育支部・宇夫代議員）、建設部会の活動（旭川支部・春田代議員）、矢臼別平和盆踊り（釧路地裁支部・小沼代議員）、企業組合のとりくみと「健康相談会」（美幌支部・坂上代議員）、春闘のとりくみ（函館運送支部・釣谷代議員）、J R職場の状況と夏季一時金闘争（鉄道本部・最上代議員）、遺族補償不支給取消訴訟（札幌労災支部・高橋代議員）、「健康相談会」・じん肺診査ハンドブック改訂・青年部の平和学習（函館・宝福代議員）、選挙闘争と労働相談（北空知支部・小松代議員）について発言がありました。

宮澤書記長は「討論のまとめ」で、組合員の要求にもとづく職場でのたたかひの重要性、制度・政策要求で改善をめざす業種でのとりくみを前進させること、「要求アンケート」のとりくみを強化すること、宣伝行動を強めて地域に建交労の活動を知ってもらうこと、地域での共同行動に参加して政治を変えることや平和のとりくみを強めることなどを強調しました。

なお新年度の役員は、森国委員長、宮澤書記長などが再選され、河合雅夫副委員長（函館支部）が退任して竹田吉宏副委員長（北海道鉄道本部）が選出されました。

J R北海道・線区別収支報告

9月26日にJ R北海道の2025年度第1四半期の線区別収支と利用状況の報告がおこなわれました。営業収益は運賃改定の実施や千歳線が好調に推移しており、「あさひかわ菓子博」の開催など札幌圏をはじめ多くの線区で増加しています。営業費用については人材確保のための待遇改善を進めたことや物価高騰の影響などから増加しており、全体の営業損失は前年とほぼ同水準と説明されました。収益の増加分を待遇改善に配分したうえで、昨年と同水準の営業損失であれば計画通りとなり、運賃改定の大義が示されたこととなります。10月2日には経営協議会があり、上期の状況と下期の計画が議論されます。今回の線区別収支報告を受けて、建交労としての考え方をもって、意見交換を深めたいと考えています。（続報）

北海道鉄道本部 竹田吉宏